

三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ ＜トルコリラコース＞（毎月分配型）

愛称：グローイング・スター

追加型投信／海外／債券

信託期間を従来の2021年6月11日から2026年6月12日へ延長しました。

作成対象期間：2019年12月14日～2020年6月15日

第 80 期 決算日：2020年1月14日 第 83 期 決算日：2020年4月13日

第 81 期 決算日：2020年2月13日 第 84 期 決算日：2020年5月13日

第 82 期 決算日：2020年3月13日 第 85 期 決算日：2020年6月15日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、米ドル建ての新興国の高利回り社債を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざす運用を行います。実質的な保有外貨建て資産に対しては、米ドル売り、トルコリラ買いの為替取引を行います。ここに運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第85期末（2020年6月15日）	
基準価額	2,745円
純資産総額	2,495百万円
第80期～第85期	
騰落率	-16.7%
分配金合計 ^(*)	150円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

MUFG 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  0120-151034

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

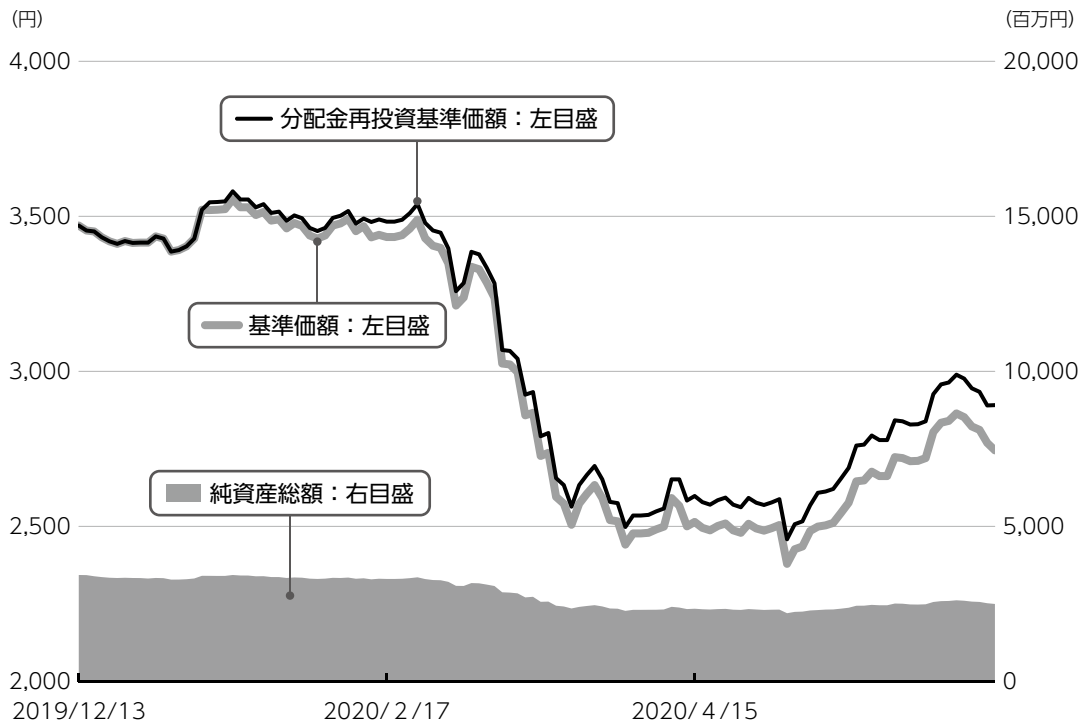
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第80期～第85期：2019年12月14日～2020年6月15日

▶ 当作成期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第 80 期 首	3,470円
第 85 期 末	2,745円
既払分配金	150円
騰 落 率	-16.7%

(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ16.7% (分配金再投資ベース) の下落となりました。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

米ドル売り、トルコリラ買いの為替取引によるプレミアム (金利差相当分の収益) を獲得したこと等が基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

新興国高利回り社債市況が下落したことや、トルコリラが対円で下落したこと等が基準価額の下落要因となりました。

2019年12月14日～2020年6月15日

1万口当たりの費用明細

項目	第80期～第85期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	29	0.961	(a) 信託報酬 = 作成期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (作成期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(18)	(0.602)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(10)	(0.337)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(1)	(0.022)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.002	(b) その他費用 = 作成期中のその他費用 ÷ 作成期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	29	0.963	

作成期中の平均基準価額は、2,989円です。

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

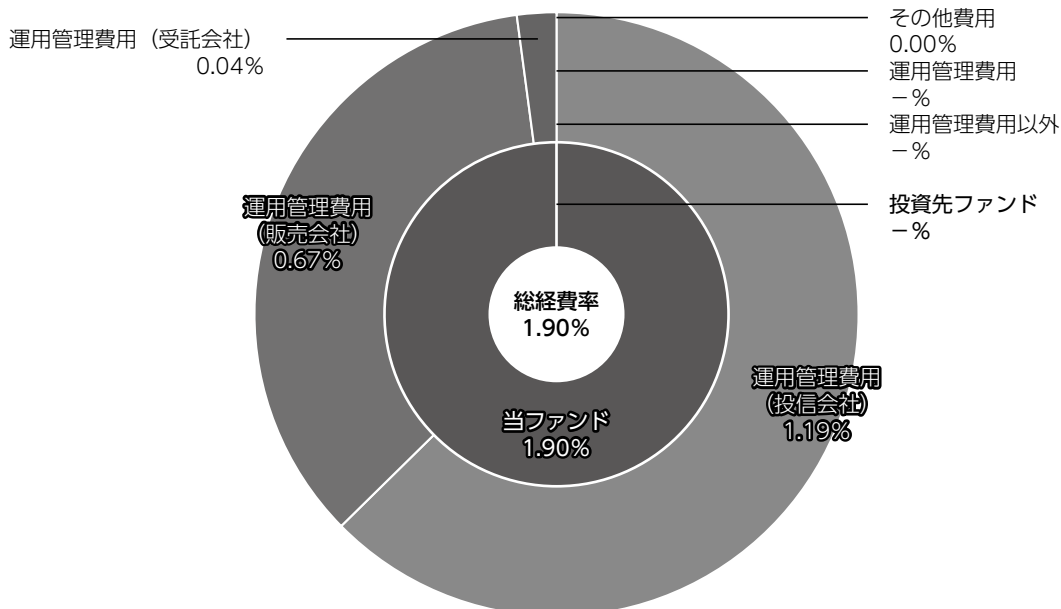
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成中の平均受益権口数に作成中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.90%**です。



総経費率 (①+②+③)	(%)	1.90
①当ファンドの費用の比率	(%)	1.90
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	－
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	(%)	－

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2015年6月15日～2020年6月15日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額は、2015年6月15日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2015/6/15 期初	2016/6/13 決算日	2017/6/13 決算日	2018/6/13 決算日	2019/6/13 決算日	2020/6/15 決算日
基準価額 (円)	7,437	5,657	4,818	3,644	3,255	2,745
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	960	960	630	375	300
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-11.0	2.9	-13.0	1.0	-7.2
純資産総額 (百万円)	747	401	1,310	5,278	3,742	2,495

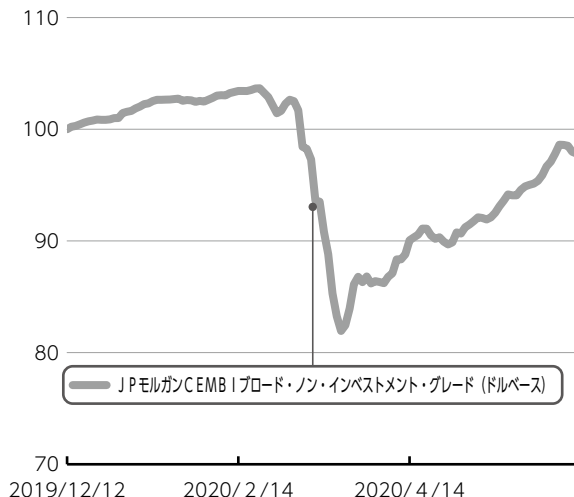
※ファンド年間騰落率は、収益分配金 (税込み) を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第80期～第85期：2019年12月14日～2020年6月15日

投資環境について

債券市況の推移 (当作成期首を100として指数化)



▶ 債券市況

新興国高利回り社債市況は下落しました。

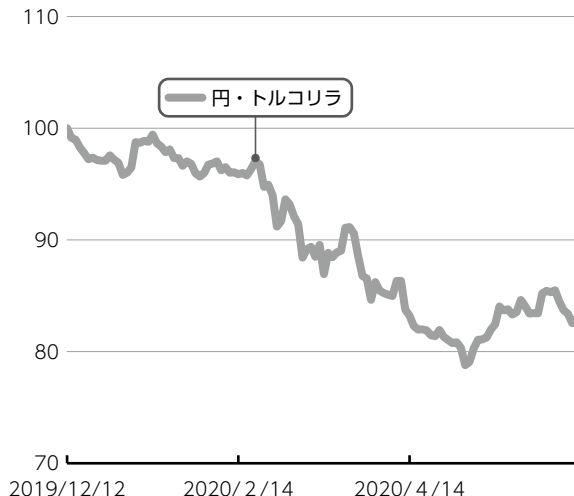
新興国高利回り社債市況は、当作成期を通じて見ると、スプレッド（米国債への上乘せ金利）が拡大したこと等がマイナスとなり、下落しました。

新興国高利回り社債市況のスプレッドは、米中通商協議の進展等を背景に縮小する局面もあったものの、新型コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う多くの国での経済活動の抑制、原油価格の下落等を背景に市場参加者のリスク回避的な姿勢の強まりから大きく拡大しました。その後、主要国の中央銀行の緩和的な措置や経済活動再開などに対する期待を背景に市場参加者のリスク回避姿勢が後退し、縮小しましたが、当作成期を通じて見ると拡大となりました。

(注) 現地日付ベースで記載しております。

(注) JPMorgan CEMBI Broad Non-Investment Gradeとは、J.P. Morgan Securities LLCが算出し公表している米ドル建ての新興国社債（非投資適格）の代表的な指数です。

為替市況の推移 (当作成期首を100として指数化、対円)



(注) 現地日付ベースで記載しております。

▶ 為替市況

トルコリラは対円で下落しました。

トルコリラは、新型コロナウイルスの感染拡大やそれに伴う多くの国での経済活動の抑制、原油価格の下落等を背景に市場参加者のリスク回避的な姿勢の強まりから、安全資産である円が買われ、当作成期を通じてみると、トルコリラは対円で下落しました。

▶ 国内短期金融市場

無担保コール翌日物金利は0%を下回る水準で推移しました。

当作成期の短期金融市場をみると、日銀は長短金利を操作目標として金融市場調整を行いました。コール・レート（無担保・翌日物）はマイナス圏で推移し、2020年6月15日のコール・レートは-0.018%となりました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<トルコリラコース> (毎月分配型)

円建ての外国投資信託への投資を通じて、米ドル建ての新興国の高利回り社債を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざしました。また、マネー・マーケット・マザーファンド投資信託証券を一部組み入れた運用を行いました。

▶ ピムコ バミューダ エマージングマーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド B - クラス J (TRY)

米ドル建ての新興国の高利回り社債等に投資を行いました。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド
コール・ローン等短期金融商品を活用し、利子等収益の確保をめざした運用を行いました。

国別・セクター配分戦略

国別選択では、ゼレンスキー大統領の政策への期待感に加え、国際通貨基金（IMF）によるサポートが続いているウクライナを積極姿勢としました。一方、長引くデモ等により政情が不安定化した香港については消極姿勢としました。

保有外貨建て資産に対しては、米ドル売り、トルコリラ買いの為替取引を行いました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第80期 2019年12月14日~ 2020年1月14日	第81期 2020年1月15日~ 2020年2月13日	第82期 2020年2月14日~ 2020年3月13日	第83期 2020年3月14日~ 2020年4月13日	第84期 2020年4月14日~ 2020年5月13日	第85期 2020年5月14日~ 2020年6月15日
当期分配金 (対基準価額比率)	25 (0.705%)	25 (0.723%)	25 (0.867%)	25 (0.965%)	25 (0.990%)	25 (0.903%)
当期の収益	25	25	25	25	25	25
当期の収益以外	-	-	-	-	-	-
翌期繰越分配対象額	1,334	1,357	1,374	1,388	1,399	1,415

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 三菱UFJ 新興国高利回り社債ファンド 通貨選択シリーズ<トルコリラコース> (毎月分配型)

円建て外国投資信託への投資を通じて米ドル建ての新興国高利回り社債を高位に組み入れた運用を行うほか、一部、マネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券の組み入れを維持し、毎月の分配をめざしていく方針です。

▶ ピムコ バミューダ エマージングマーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド B - クラス J (TRY)

新興国への投資に際しては、国ごとの経済政策とその成果を見極めたうえで、慎重に投資先を選別していくことが引き続き重要であると考えます。各国の財政状況や対外収支状況を含むファンダメンタルズ分析などに基づき、投資対象国を注意深く選別します。ファンダメンタルズが良好な国の中では、安定した現金創出能力と国際競争力を有し、バリュエーション上魅力がある企業を選好します。具体的には、ゼレンスキー政権下での構造改革による景気下支え効果が期待されることに加え、IMFによる支援策が続いているウクライナを積極方針とします。一方、長引くデモや政治的な対立

により政情が不安定化したことで、景気が急激に悪化している香港については慎重姿勢とします。

なお、引き続き、保有外貨建て資産に対し、米ドル売り、トルコリラ買いの為替取引を行います。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド

消費者物価の前年比は依然として2%を大きく下回っており、今後も日銀による金融緩和政策が継続すると想定されることから、短期金利は引き続き低位で推移すると予想しています。以上の見通しにより、コール・ローンおよびCP現先取引等への投資を通じて、安定した収益の確保をめざした運用を行う方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・ 信託期間を従来の2021年6月11日から2026年6月12日へ延長し、信託約款に所要の変更を行いました。(2020年3月13日)

▶ その他

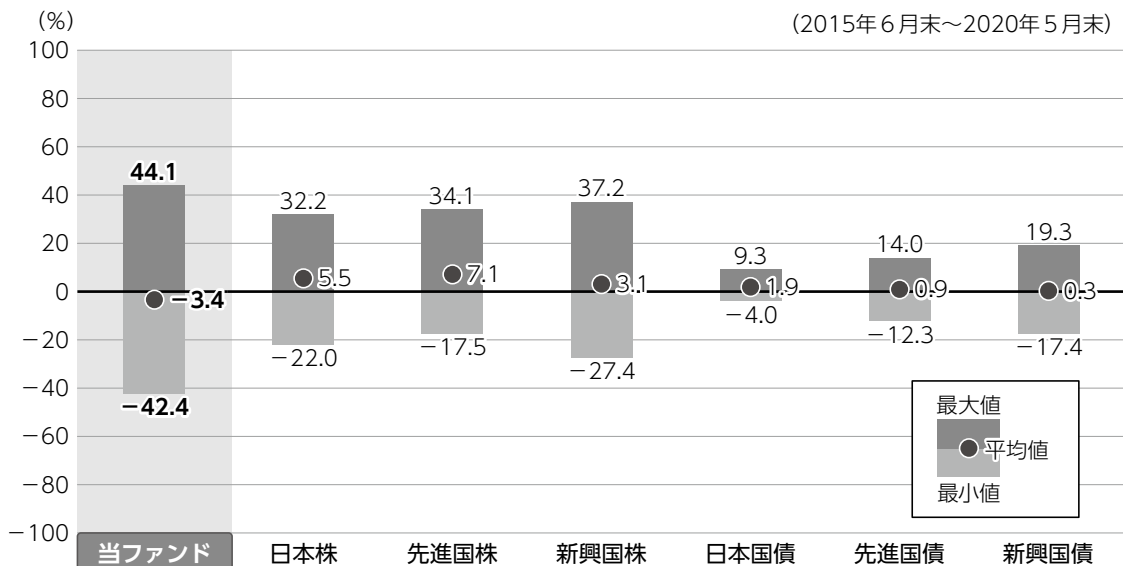
- ・ 該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2026年6月12日〔当初、2021年6月11日〕まで（2013年5月29日設定）
運用方針	主として円建ての外国投資信託であるピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド B - クラス J (TRY) の投資信託証券への投資を通じて、米ドル建ての新興国の高利回り社債等に実質的な投資を行い、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。また、当該外国投資信託への投資を通じて、実質的な保有外貨建て資産に対し、米ドル売り、トルコリラ買いの為替取引を行います（このため、基準価額はトルコリラの対円での為替変動の影響を受けます。）。なお、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券への投資も行います。投資信託証券への運用の指図に関する権限は、ピムコ ジャパンリミテッドに委託します。
主要投資対象	<p>■当ファンド</p> <p>ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド B - クラス J (TRY) およびマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>■ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド B - クラス J (TRY)</p> <p>ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド (M) への投資を通じて、米ドル建ての新興国の高利回り社債およびその派生商品等を主要投資対象とします。</p> <p>■マネー・マーケット・マザーファンド</p> <p>わが国の公社債等を主要投資対象とします。外貨建資産への投資は行いません。</p>
運用方法	米ドル建ての新興国の高利回り社債を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。なお、第2計算期末までの間は、収益の分配は行いません。

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2015年6月から2020年5月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2020年6月15日現在

当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第85期末 2020年6月15日
ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド B - クラス J (TRY)	98.4%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.1%

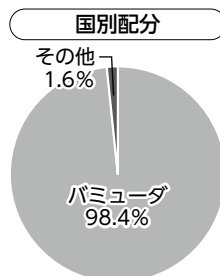
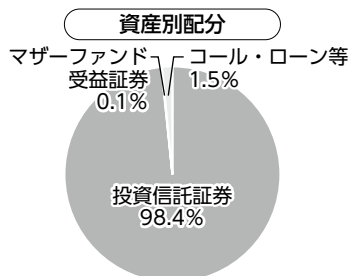
※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

純資産等

項目	第80期末 2020年1月14日	第81期末 2020年2月13日	第82期末 2020年3月13日	第83期末 2020年4月13日	第84期末 2020年5月13日	第85期末 2020年6月15日
純資産総額 (円)	3,401,994,948	3,289,180,036	2,706,538,268	2,379,319,123	2,298,365,240	2,495,298,054
受益権口数 (口)	9,665,102,652	9,583,267,812	9,468,611,010	9,272,497,375	9,195,365,041	9,089,277,213
1万口当たり基準価額 (円)	3,520	3,432	2,858	2,566	2,499	2,745

※当作成期間中(第80期～第85期)において追加設定元本は288,616,109円
同解約元本は1,082,506,867円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

2019年6月30日現在

組入上位ファンドの概要

▶ ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド B - クラス J (TRY)

基準価額の推移

2018年6月30日～2019年6月30日



基準価額以外の開示情報につきましては、各通貨毎のクラス分けされたものがないため、「ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド (M)」ベースで表示しています。

1万口当たりの費用明細

2018年7月1日～2019年6月30日
 ファンドが投資対象とする投資信託証券では運用管理費用（信託報酬）はありません。

▶ ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド (M)

組入上位10銘柄

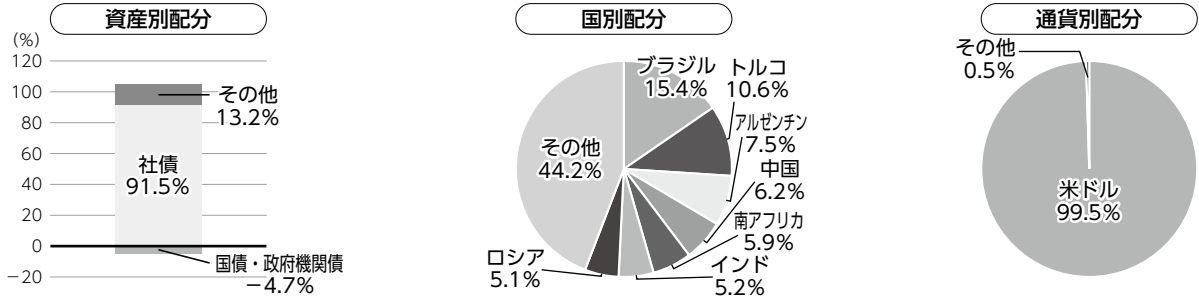
(組入銘柄数：156銘柄)

	銘柄	業種	比率(%)
1	ALTICE FINANCING SA SR SEC 144A	メディア	3.3
2	TEVA PHARM FNC NL II CO GTD SR UNSEC	医薬品・バイオテクノロジー	2.6
3	TEVA PHARMACEUTICALS NE SR UNSEC	医薬品・バイオテクノロジー	2.1
4	METINVEST BV SR UNSEC REGS	金属・鉱業	2.1
5	YPF SOCIEDAD ANONIMA	エネルギー	1.9
6	PETRA DIAMONDS US TREAS REGS	金属・鉱業	1.8
7	QGOG CONSTELLATION SA SR SEC REGS	エネルギー	1.8
8	LIQUID TELECOM FINANCE SR SEC REGS	電気通信サービス	1.7
9	RIO OIL FINANCE TRUST SEC 144A	エネルギー	1.7
10	CHINA EVERGRANDE GROUP CO GTD SR UNSEC	不動産	1.7

※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

種別構成等



※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
 ※ピムコ バミューダ エマージング マーケット ハイ イールド コーポレート ボンド ファンド B - クラス J (TRY) において、保有資産に対し米ドル売りトルコリラ買いの為替取引を行っており、実質的な通貨別比率はトルコリラ98.6%です。

968469

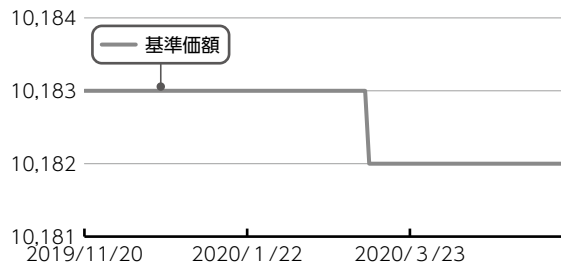
2020年5月20日現在

組入上位ファンドの概要

マネー・マーケット・マザーファンド

基準価額の推移

2019年11月20日～2020年5月20日
(円)



1万口当たりの費用明細

2019年11月21日～2020年5月20日
当期において費用が発生していないため、費用明細は作成していません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：1銘柄)

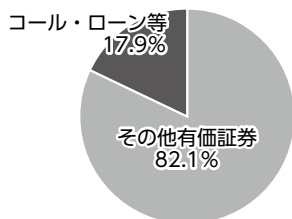
	銘柄	種類	国	業種/種別	比率(%)
1	アプラス 200521	その他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	82.1
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。

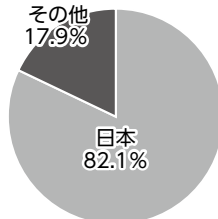
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

種別構成等

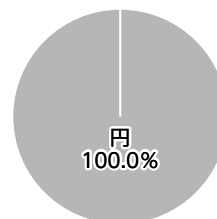
資産別配分



国別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

●MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信